

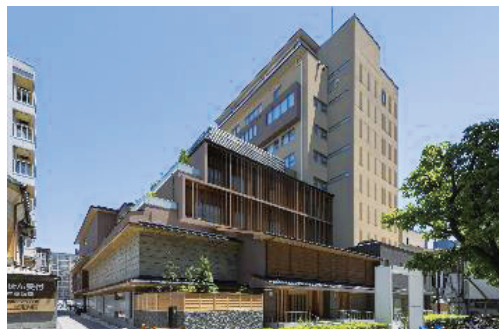
Case - 5

株式会社銀閣 “RYOKAN GINKAKU KYOTO”

1952年に創業、2023年5月に“RYOKAN GINKAKU KYOTO”としてリニューアルオープンしている。一般のお客様に加え、高校・中学・小学生の修学旅行をメインに宿泊いただく宿泊施設。旅館でありながらも電気錠カードシステムや監視カメラによる防犯等の安全管理対策も万全とし、館内は極力段差をなくしたユニバーサルデザインに対応し、旅館ながらも最新のシステムを導入している。

【会社概要】 ※2023年3月31日時点

会社名	株式会社銀閣
本社所在地	〒600-8216 京都市下京区不明門通七条下ル 東塩小路町709番地
事業内容	宿泊事業
部屋数	61部屋
従業員数	106名



CO₂ 排出量削減の取組概要



知る

『CO₂ 排出量削減の取組を考え始めたきっかけ・知った場面』／ 『脱炭素化の取組開始のきっかけ』

- ・2023年の建て替え、リニューアルオープンをするにあたって、環境への配慮を考え始めた。

『脱炭素化関連情報の収集方法』

- ・情報収集は様々。例えば、紙パックの水の導入は自社代表が銀行から紹介をうけた。他にも異業種交流会をきっかけに知ることもある。
- ・各担当者の個人的なつながりや前職でのつながりなどで情報を手に入れたり、発信したりすることもある。



測る

『CO₂ 排出量可視化ツール導入状況』

- 導入しておらず、未検討。
※現在は電力消費量の見える化をしている。(詳細後述)



取り組む

『実施している排出量削減の取組の概要』

・電気使用量の見える化

電力の使用状況を“数値”とニコちゃんの“表情”で「見える化」する、環境指向型多機能モニター付デマンド警報器（※日本テクノ株式会社“SMARTMETER ERIA”）と、目標設定値に対し使用状況に応じて表示が変わり、目標値をオーバーしそうになると色の变化と音で警告する時計（※日本テクノ株式会社“SMART CLOCK”）を導入している。

- ✓ フロントの奥に設置しているため、随時確認が可能。
- ✓ 部屋ごとの電気や空調の使用状況などもわかるため、空室でムダな電気を使わないこと＝使用量の削減が可能。
- ✓ 電力消費量を視認できることで、一時的な電力消費の増大（例：修学旅行のような団体が入った直後等）が発生しないような対応の検討・実施ができています。



電気使用状況が表情でわかる
“SMARTMETER ERIA”



電気使用状況が色でわかる
“SMART CLOCK”

・太陽光発電

エネルギー削減を目的として、施設リニューアルの設計段階から検討を始め設置した。

太陽光パネルは施設屋上に設置しており、発電された電機は館内で使用している。



設置した太陽光パネル

・リサイクル可能な紙パックの水の提供

お客様の目に届く形の環境貢献として、リサイクルを前提として設計された紙パックの水（HAVARY'S）をお客様に提供している。お客様が飲んだ後（使用後）の紙パックを業者に返送すると、トイレトペーパーにリサイクルされる仕組み。そのように製造されたトイレトペーパーは館内でも利用している。循環型社会への貢献の一つとして取り組んでいる。



各部屋に設置している案内



HAVARY'Sの水

・その他

- ✓ 箸を割り箸から、洗える箸に変更した。
- ✓ 館内の水路は井戸水を循環して使用している。
- ✓ 学生団体（修学旅行等）での利用が多い点も踏まえ、部屋の中のアメニティ（シャンプーなど）はボトルを配置している。
- ✓ 二泊三日の利用が多く、その場合の二泊目は簡易的な清掃を実施している。
- ✓ 食用油の廃油は回収業者で回収いただいている。



効果

『導入効果』

- ・電気使用量の可視化、紙パックの水や洗える箸の利用など、従業員の目にも見える取り組みを進めることで、環境貢献に関する従業員の理解は進んでいると認識。

—今後の取り組み—

- ✓ まだ取り組みには至っていないが、周辺地域の農業高校と連携した環境貢献の取り組み（例：精米でうまれるぬかの再利用、たい肥の提供等）は検討を重ねており、今後も検討・実行を進めていく想定。
- ✓ 前述した取り組みの実行に向けては、地域住民や他の事業者の理解や協力も必要となってくる。行政との連携等も検討しながら、取り組みを推進していく。